



頼住 光子 (YORIZUMI Mitsuko)

東京大学大学院人文社会系研究科 教授

お茶の水女子大学文教育学部哲学科卒業、
東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了 (倫理学)、
同博士課程修了。
博士 (文学)。

日本学術振興会特別研究員、山口大学専任講師、同助教授、お茶の水女子大学助教授、准教授、教授を経て、2013 年より現職。

専門は、倫理学・日本倫理思想史である。

倫理学の中心問題である「何をなすべきか」という行為に対する問いを、その基盤となる「人は何であるのか」「世界は何であるのか」という存在の問いにまで遡って考えることを目指す。研究方法としては、日本語で書かれたテキストの思想構造を解明することを通じて、その世界観、人間観を検討するとともに、背後にあるコンテキストも探る。具体的には、道元、法然、親鸞などの日本仏教の思想を中心として、日本思想を幅広く扱っている。特に、和辻哲郎の倫理学、倫理思想史の方法について検討し、「間柄の倫理学」には収まらない超越との関係という側面から、新たな日本倫理思想史の構築を目指している。

また、これらの基礎的な研究によって得られた知見が、現代における諸問題にどのような解決の道筋をつけることができるのかという問題にも取り組んでいる。

主たる著作として、『さとりと日本人』(単著、ぷねうま舎、2017 年)、『正法眼蔵入門』(単著、角川文庫、2014 年)、『道元の思想 大乘仏教の真髓を読み解く』(単著、NHK 出版 2011 年)、『日本の仏教思想——原文で読む仏教入門』(単著、北樹出版、2010 年)、『道元 自己・時間・世界はどのように成立するのか』(単著、NHK 出版 2005 年)、『比較宗教への途 1 人間の文化と宗教』(共著、北樹出版、1994 年)、『比較宗教への途 2 人間の社会と宗教』(共著、北樹出版、1998 年)、『比較宗教への途 3 人間の文化と神秘主義』(共著、北樹出版、2005 年) など。

最近の業績としては、「日本における仏教と儒教との関係についての一考察」(『倫理学紀要』第 24 輯、2017 年)、“Some Aspects of Watsuji Tetsurō’s Ethics of Aidagara (Betweenness): On the Formation of His Ethics from the Viewpoint of His Ideas on Form and the Flow of Life” (『倫理学紀要』第 23 輯、2016 年)、「比較思想の方法論に関する一考察」(『比較思想研究』第 42 号、2016 年) など。

日本哲学系諸学会連合委員、日本倫理学会評議員、比較思想学会理事、日本仏教総合研究学会評議員、実存思想協会評議員、日本宗教学会評議員、日本思想史学会評議員などを歴任。